

空き家の実態調査概要

1 現地調査概要

(1) 調査地域，時期，内容等

調査地域：市内 26 学区

時 期：平成 30 年 7 月～平成 31 年 3 月

内 容：水道閉栓等の情報を基に外観調査等（家屋の使用状況，建物の構造，管理状況，鉄道駅・バス停からの距離等）の調査

(2) 空き家数：3, 802 戸

平成 26 年度調査結果との比較は以下のとおり。

（調査全学区（26 学区）及び平成 26 年度と同じ学区（20 学区））

空き家数（H30）	空き家数（H26）	差（H26－H30）
3, 420 （20 学区）	3, 861 （20 学区）	441 減 （20 学区）
3, 802 （26 学区）	4, 374 （24 学区）	572 減 （26 学区）

※ なお，今回の結果では空き家数の減少が見られたが，近年の観光需要等の影響なども考えられることから，今後の人口減少社会においては，空き家の増加を見据えておく必要がある。

2 アンケート調査概要

(1) 送付対象，送付数，時期，内容，回答数

送付対象：現地調査で判明した空き家について，登記記録により送付先が判明した所有者に対して，アンケートを送付。

送 付 数：2, 700 通

時 期：平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月

内 容：空き家になった理由，期間，活用意向等，空き家の状況及び所有者の意向等の調査

回 答 数：986 通（回答率：36.5%）